

電動小型低速車普及推進セミナーを開催しました

我が国の地方における公共交通の衰退は、マイカーの増加に伴い環境負荷が増大する等の問題を引き起こしています。今後の更なる低炭素社会を見据えたときに、環境負荷の少ない電動小型低速車は、歩行者とも共存できる新たなモビリティとして、地域内における生活の足や観光地での移動手段として、その解決策の一つになることが期待されています。当財団は平成28年度から本事業に取り組み、平成26年から公道走行が可能になったゴルフカートの国内の事例調査や活用シナリオの検討、セミナー開催等を行いました。

セミナーは、①西本 俊幸 国土交通省自動車局環境政策課長及び里谷 光弘 輪島商工会議所会頭からの基調講演、②ゴルフカートを用いた実証地域における事例紹介、③電動小型低速車の想定活用地域と活用方法の紹介、④鎌田 実 東京大学大学院新

領域創成科学研究科教授のコーディネートによるパネルディスカッションの4部構成で行いました。

平成28年度の成果は、当財団ホームページに掲載されています。



開催風景

COLUMN

第10回 アジアEST地域フォーラム開催結果

国際連合地域開発センター(UNCRD)等が主催する第10回アジアEST地域フォーラムが2017年3月14日～16日にラオス人民民主共和国・ヴィエンチャンで開催され、当財団も参加しました。

同フォーラムでは、「持続可能な交通のための2030年ロードマップ～持続可能な開発目標に向けて(SDGs)～」を主な

テーマに、各国のESTに関する政策の共有などが行われるとともに、環境的な観点を含めた持続可能な発展のため指針であるヴィエンチャン宣言が採択され、より一層ESTを推進することについて確認されました。同フォーラムの概要及び主な結果は、以下の通りです。

1. 会議概要

(1)日程	2017年3月14日(火)～16日(木)
(2)会場	ラオス人民民主共和国・ヴィエンチャン ドンチャンパレスホテル
(3)主催	日本国環境省、国際連合地域開発センター(UNCRD)、ラオス人民民主共和国公共事業運輸省(MPWT)、国際連合アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、国際連合持続可能開発事務所(UNOSD)、持続可能な低炭素交通パートナーシップ(SLoCaT)
(4)参加者	アジア諸国28カ国※1の政府高官、交通と環境分野に関する学識経験者等の専門家、国際機関関係者など

2. 主な結果

▶アジア地域28カ国の代表等が参加し、特にSDGsを踏まえた持続可能な交通のための2030年ロードマップや、COP22を踏まえた気候変動への適応等をテーマに議論が行われ、ESTに関する政策、先進事例等の共有が図られました。

▶2010年開催の第5回フォーラムにて採択された「バンコク宣言2020」に示された目標の実現に向けた各国の取組の紹介が行われるとともに、非都市部の交通に焦点をあてた、環境的な観点を含めた持続可能な発展のための指針であるヴィエンチャン宣言が全会一致で採択され、これらの目標の実現に

向けてより一層ESTを推進することについて確認されました。
▶第11回アジアEST地域フォーラムはモンゴルで開催されることが合意されました。

※1 アフガニスタン、アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブータン、カンボジア、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、キルギス、ラオス、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、ロシア、シンガポール、スリランカ、タジキスタン、タイ、東ティモール、トルクメニスタン、ウズベキスタン、ベトナム

3. 当財団の取組

運輸・交通と環境の英訳版(TEJ2016)を会場で配布すると共に、本会議2日目の最終セッションで日本の交通環境対策について発表しました。

4. おわりに

ヴィエンチャン市街地の交通事情は、一部にアジアの途上国の特徴である朝夕のラッシュや渋滞はあるものの、勾配が殆どないため、オートバイや自転車、徒歩による移動に適していました。市街地の大気は汚れており、マスクをする市民や観光客も多くみられました。これらの交通と環境の問題を解決するためには大量輸送機関が必要ですが、日本が支援してい



集合写真



本会議風景



当財団出演セッション



電動小型低速バス

るバス網が一部あるものの、充実しているとは言えず、追加の検討が必要と感じました。観光客向けではあるものの、10名程度が乗車できる電動小型低速バス(大型の電動ゴルフカート)が市街地の公道を走行しており、これを市民向けの交通手段としても検討する価値がありそうです。

【参考】

第10回アジアEST地域フォーラムの結果について(環境省)
<http://www.env.go.jp/press/103819.html>
第10回アジアEST地域フォーラム(国際連合地域開発センター)
<http://www.uncrd.or.jp/ja/?page=view&nr=1648&type=13&menu=198>
TEJ2016 (Transport and Environment in Japan2016) (エコモ財団)
<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>



平成29年度 事業計画

当財団は、人と地球にやさしい社会環境の実現を目指して活動を推進しています。この目的を達成するため、平成29年度は以下の事業を行います。

I バリアフリー推進事業

1. 交通事業者と一般向けバリアフリー啓発・教育の実施
2. 公共交通事業者等に就業者に対する手話教室の開催
3. バリアフリー推進勉強会の開催及び関係学会との連携
4. 公共施設等における文字サインに関する基礎調査
5. オリンピック、パラリンピック開催に向けた移動と交通に関する調査等
6. 公共交通機関における障害者差別解消の推進に関する研究
7. 公共交通機関における認知症者の対応の提案
8. 小型旅客船のバリアフリー化と標準化モデルの検討(新規)
9. 福祉送迎車両の利便性・安全性向上と標準仕様の検討
10. 移動等円滑化ガイドライン(旅客施設・車両編)の見直し検討(新規)
11. 海上交通バリアフリー施設整備推進
12. ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成
13. 「らくらくおでかけネット」等の運営

II 交通環境対策事業

1. 運輸事業者におけるグリーン経営認証制度の実施
2. エコ通勤優良事業所認証制度の実施
3. エコドライブの普及
4. 環境的に持続可能な交通の普及
5. モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及
6. 地域における外国人旅行者等の円滑な移動の推進
7. 交通・観光分野におけるカーボンオフセットの普及
8. エコプロダクツ大賞の実施及び展示会への出展
9. 地域内や観光地における電動小型低速車の活用
10. 「運輸・交通と環境」の作成、発行

III 鉄道駅移動円滑化施設整備事業



詳しくは、当財団ホームページまで

エコモ財団 検索